

# 第 2 章

## 基本構想

令和 7(2025) ▶ 令和 16(2034)年度

## 第2章 基本構想

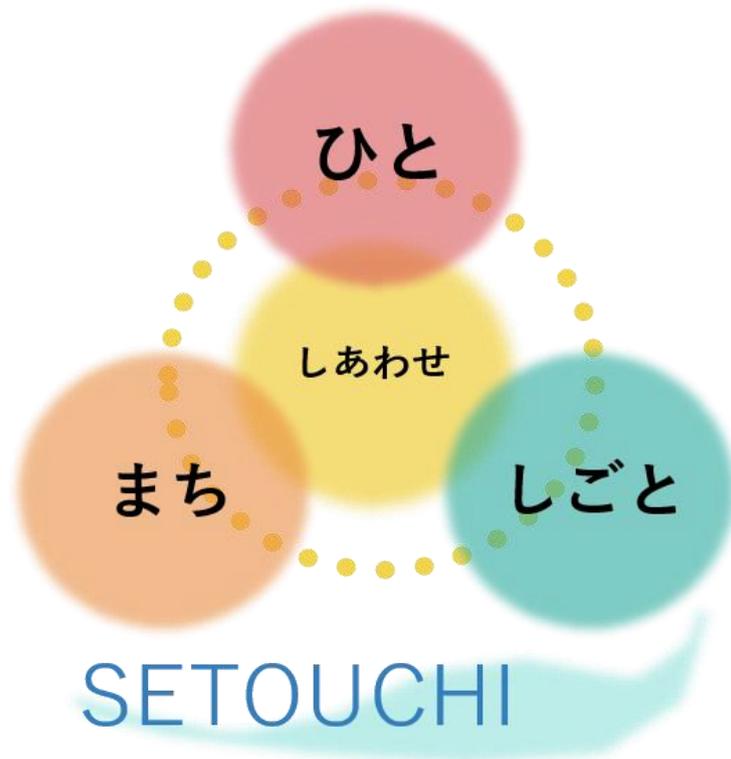
### 1. これからのまちづくりに向けて

コロナ禍等を経て、私たちの価値観は多様化し、生き方、暮らし方、働き方などが大きく変化しています。特に、一人ひとりが自分らしく生きるダイバーシティの尊重や、心身の健康維持と社会生活の充実によるウェルビーイングの追及など、人々がより幸せに暮らすことが重視されています。また、社会の様々な場面で、国を越えた交流の拡大やデジタル化を含む技術革新が見られるなど、私たちの暮らしを取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。

一方で、松山には、豊かな自然や歴史、道後温泉や松山城など世界に誇る文化財や史跡、正岡子規や夏目漱石など多くの俳人・文人が交流を深めた文学的土壌、自然と都市部のバランスの良さなど、先人たちから変わらず受け継がれてきた多くの宝があります。

これからのまちづくりでは、それらの宝を継承し、魅力を更に高めた上で、次の世代へと、しっかりつないでいくこと、そして、市民の声、特に次代を担う若い世代の声を聴き、新しい技術や考え方など、社会に良い変化をもたらす兆しを確実に捉えて、人口が減少する中でも、市民のウェルビーイング実現に向けて挑戦することが求められます。

そこで、明治という新しい時代の幕開けに、未来に向かって明るくひたむきに挑戦し続けた小説『坂の上の雲』に描かれる人々など、チャレンジ精神あふれる先人たちにならない、時代の大きな転換期を迎える今こそ、同じ時代を共に生きる人たちと、語らい、共感し、互いをありのまま受け入れ、笑顔を大切にしながら未来に夢を描き、一人ひとりの幸せが実現する都市を目指して「つながる力」で挑戦します。



元来、私たちが暮らす瀬戸内は、港や城下町を多くの人・物・文化が往来し、豊かな自然や温暖で穏やかな気候を背景に、海外と都をつなぐ交流の要所として発展してきました。江戸末期には、シルクロードを命名した世界的な地理学者が、美しい海に点在する島々と、それを囲む山々が一体となった優美な景色を絶賛したことで、日本人も、その価値に気づき、瀬戸内という概念が生まれ定着しました。そして、昭和の初めに、この多島美を有する地域が日本で初めて国立公園として指定されて以来、先人たちに磨かれながら受け継がれ、2024年には90周年を迎えています。近年、この美しい自然に人々の暮らしが溶け込んだ景観など、瀬戸内の文化的価値が海外で再評価されたことで大きな注目を集め、世界の中でも特に行くべき場所として「SETOUCHI」が広く認知されています。

そこで、この世界ブランドである「SETOUCHI」を活用し、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、安心して「人」がつながり、市の内外、そして世界へと「まち」がつながり、職業や働き方、住む場所を超えて「仕事」でつながることで、相乗的に効果を発揮し、世界が注目する「SETOUCHI」で多くの人と文化が交流する拠点として、住み続けられるまち、住み続けたいまち、そして若い世代からも選ばれるまちに向けた取組を進め、一人ひとりの幸せが実現するまちを目指します。

#### 《まちづくりの理念》

一人ひとりの幸せが 実現するまちへ  
～笑顔を大切に「つながる力」で挑戦～

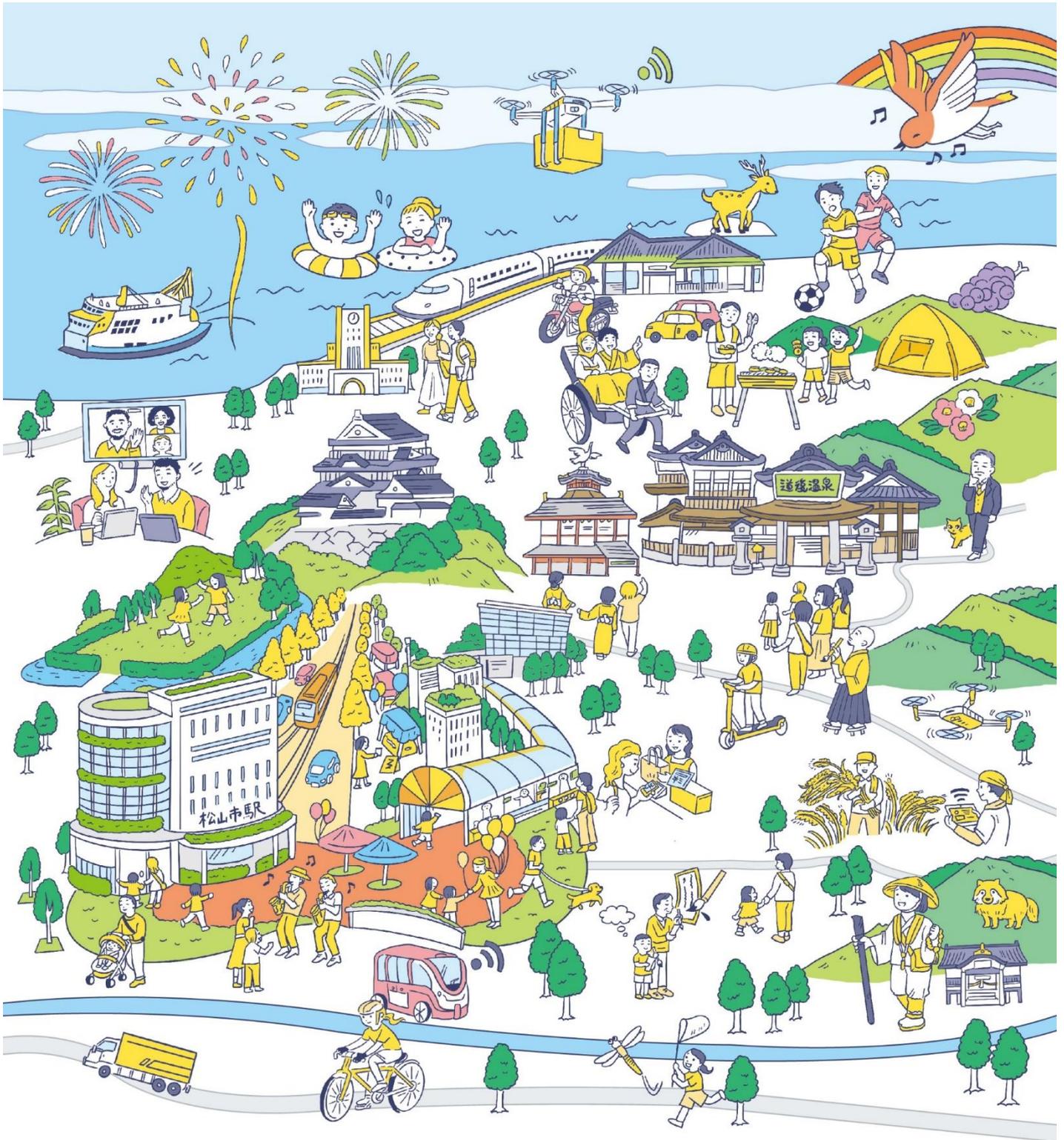
#### 《将来都市像》

人、まち、仕事がつながる交流拠点  
『SETOUCHI まつやま』

## 2. 将来のまちの姿

多くの市民の皆さんの声、中でも若い世代の望みや想いを受け、  
「人」「まち」「仕事」が繋がった将来の松山市の姿を記載しています。





## ① 「人」がつながる

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もがお互いを認め合い、「人」がつながる中で、それぞれのライフステージに応じて、一人ひとりが自分らしく充実した日々を送りながら、松山で安心して暮らすことができます。

こどもの権利が尊重され、多くの人に支えられながら、確かな学力や体力の向上を図り、他者との関わりの中で健全で豊かな心が育まれています。また、持続可能な社会づくりの担い手として、グローバル社会でも活躍できるよう、ふるさとの歴史・文化・伝統はもちろん、外国の多様な歴史・文化・伝統にも触れられるようになっています。さらに、早い時期からのキャリア教育やICTを活用した情報活用能力の向上などが進み、今後の社会の変化に対応できるこどもの生きる力が育まれています。

家族や友達と一緒に遊びに行ける場所や、楽しく買い物ができる場所があり、常に新しい情報をキャッチして好奇心や感性を育みながら、日々の充実した暮らしを実感できることはもちろん、音楽やダンス、スポーツ、サブカルチャーなど、自分が興味のある活動を楽しみ、好きなことに打ち込める環境が整っています。

自然の中やまちなかでの様々な体験や学び、市内外の人々との出会い・交流の中で、主体性が生まれ、自分たちの意見やアイデアがまちづくりにいかされていると実感できる機会が増え、地域に対する愛着や誇りが深まっています。

学んだ知識や技能をいかせる多様な雇用が創出され、結婚・子育てなど、新たなステップへ安心して進める水準の所得が得られ、やりたいことにチャレンジできる環境で、若者の定着が進んでいます。

年齢や組織の垣根を越えて交流できる機会や場が整い、出会いが増えることで、様々な人がつながり、組織の活性化はもちろん、個人の成長にもつながっています。

結婚や出産を望む人が、経済的な理由や自身のキャリア形成などで様々な悩みや不安を抱え、諦めたり、機会を逃したりすることがないように、結婚を望む人同士の出会い・交流の場が提供され、妊娠から出産、産後の悩みやこどもの発達に関する不安などに、地域や福祉、医療が寄り添い、安心できる環境づくりが進んでいます。

仕事と子育ての両立に向け、学童保育を含めた更なる保育環境の充実や、必要な人材の確保に取り組むことで、切れ目のない子育て支援が提供され、行政と企業、関係機関が連携して、柔軟な働き方ができる就労環境を整えることで、育児休業を取ること、育児や家事を共に行うことが当たり前の社会になっています。そして、子育てを地域全体で支える機運が高まり、子育ては楽しいものという認識が広く浸透しています。

いくつになっても健康で充実した生活を送れるよう、キャリア形成や余暇の過ごし方について、学び・考える機会が増え、新たな仕事や趣味、文化・スポーツや地域活動にチャレンジしやすくなっています。また、松山へUターン・Iターンする人が多く、それまでに培った知識や経験、人脈などをいかして、新たな活躍の場を得ています。

家事や買い物、社会参加へのサポートや、かかりつけ医の確保など、様々な困りごとにも、家族だけでなく、充実した地域福祉や体制が強化された医療、そして、ご近所の力も借りながら、安心して自分らしい暮らしを続けられるよう、こどもから高齢者までが、お互いに声かけやあいさつ、見守りを行うなど、世代間の交流を通じて、「お互いさま」の気持ちで地域を支えています。

## ② 「まち」がつながる

国内外の様々な「まち」がつながり、地域資源の活用や文化・スポーツなどの交流で、新たなにぎわいを生み、交流拠点としての松山の魅力がより一層高まっています。また、持続可能で安全・安心な快適に暮らせる都市環境が整い、次世代に受け継がれています。

瀬戸内の豊かな海や山、川などを地域資源として活用することに加え、それらの自然環境を保全し、次の世代につなげるため、再生可能エネルギーの導入や脱炭素型のライフスタイルへの転換など、「ゼロカーボンシティ松山」の実現を目指した取組が進んでいます。

節水型都市づくりが進むとともに、道路や橋梁、上下水道施設など、都市インフラの強靱化が進み、大規模災害などにも耐えられる都市環境が形成されています。

要配慮者を含む市民の命や財産を守り、災害時に早期にまちを復旧・復興することができるよう、行政や関係機関が連携した防災・減災への取組が進んでいます。また、全世代型防災教育が充実し、学校、地域、施設などで実施する防災行動への理解が進むなど、市民一人ひとりの防災意識が高まり、災害に強い安全・安心なまちになっています。

公共交通をはじめ、様々な交通手段がシームレスにつながり、誰もが安全で快適に移動できる環境が整っています。

空港や港の航路の充実・拡大、四国新幹線実現や交通ターミナル機能の強化、松山外環状道路の延伸などにより、近隣市町をはじめ国内外の様々なまちとつながるとともに、自動運転の公共交通機関や次世代モビリティが走行することで、移動の利便性が高まっています。

中心市街地では、歩いて暮らせる都会的な街並みと緑豊かで魅力ある景観が調和した都市空間が創出されています。それらに加え、まちのにぎわいと歴史や文化を感じながら、徒歩や自転車、地域公共交通等の移動手段の連携により、JR松山駅や松山市駅、城山公園、中央商店街、道後温泉など、地域資源を快適に回遊することができます。

また、文化・スポーツなどの交流施設、オフィスビルやホテル、飲食・商業施設などの都市機能の集積やまちなか居住が進み、マルシェや演奏、ダンスなどでにぎわう交流の場が生まれ、誰もが気軽に文化や芸術にも親しめる環境が整っています。

郊外では、豊かな自然環境や伝統など、その地域ならではの魅力や特性をいかしたまちづくりが進み、まちとまちの回遊性が高まり、バスや鉄道、船舶などの交通拠点の機能強化や交通機関の利便性向上で、交流が促進され、新たなにぎわいを生み、更にまちの魅力が増しています。

また、地元プロスポーツをはじめ、様々なスポーツを「する」「みる」「ささえる」人たちを応援できる環境が整備され、市内外のコミュニティがつながり、地域が活性化しています。

デジタル技術の導入や活用により、便利で住みやすいまちづくりが進み、誇れるまちの魅力が次代に引き継がれ、その魅力を発信することで、「行ってみたい」「住んでみたい」「住み続けたい」と、広く国内外から選ばれるまちになっています。

### ③ 「仕事」が つながる

女性や若者、高齢者をはじめ、障がい者、外国人など、誰もが多様で柔軟な働き方ができる環境が整い、働きがいを持って仕事をしています。また、観光業や農林水産業、製造業のほか、サービス業や医療・福祉、教育など様々な産業が連携し、市内外で「仕事」が つながり、人、物、情報、企業が集まることで、相乗効果が生まれ、地域経済の好循環が続いています。

業務の効率性や生産性の向上のためのデジタル化、専門的な技術や知識を持った人材の育成などが進み、産業基盤が強化されています。

また、国内の市場規模縮小が予測される中、アジア経済圏など海外へ新たな販路拡大を進める企業が増加し、世界規模で加速している産業のGX（グリーン・トランスフォーメーション）が進んでいます。

観光関連産業では、道後温泉や松山城などの魅力が国内外へ効果的に発信されているとともに、MICE（マイス）の誘致や瀬戸内の魅力をいかしたインバウンドの獲得など、戦略的な誘客が進んでいます。

外国人観光客や高齢者、障がい者など、すべての人が快適に観光できるよう、買い物やサービス、交通分野のデジタル化やキャッシュレス化等が定着するとともに、人手不足解消に向けた、デジタル技術の活用による受入環境の整備が進んでいます。

また、地域資源をいかし、夜間や早朝でも楽しめる様々な体験型メニューなどが提供され、旅行者の滞在日数が増加し、消費が拡大するとともに、地域の自然や文化を守り育み、住民の暮らしに配慮したサステナブルツーリズムが展開されるなど、持続可能な観光に共感する旅行者を受け入れ、世界から選ばれる観光地となっています。

豊かな自然に恵まれた松山市の農林水産業では、誇りを持って市外にアピールできる特産品のブランド化や販路拡大が進むことで、経営が安定し所得が向上しています。加えて、相談体制の整備や、デジタルなど新たな技術の導入が進み、生産性や仕事としての魅力が高まることで、就業希望者の裾野が広がり、担い手の確保につながっています。また、新鮮で安全・安心な食材を使った料理等を市民や観光客が楽しめるようになっています。

空港からのアクセスの良さや暮らしやすさを好んで、大都市圏との二拠点生活を送る人や、テレワーク等で、松山に居ながら国内外の様々な地域との仕事をする人が増えています。

また、若者の起業や副業へのチャレンジを受け入れる環境が整っているほか、海外を含め、様々な地域の企業や人材、職種とつながる機会の増加や、複業・副業人材の活用などによって、新たな産業・ビジネスが創出されています。

行政、金融機関、大学、企業や関係団体などが連携して、新たな交流やイノベーションを生み出すエコシステムが構築され、立場を超えた協働・共創のコミュニティの形成や、デジタル人材の育成で、起業や新事業への進出、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による社会課題の解決などが進んでいます。

### 3. 総合計画の進行管理

総合計画に描く「将来都市像」を実現するためには、変化の激しい時代に柔軟に対応しながら、計画を着実に進めることが求められます。

そこで、適切な目標を設定し、市民や事業者など外部の意見を聴きながら達成状況を点検・評価するほか、社会環境の変化も踏まえた必要な見直しや改善を行うなど、外部の視点を取り入れたPDCAサイクルを確立することで計画の実効性を高めます。



